

銚子七中
学校だより

坂東太郎

令和2年9月4日
第28号

校長閑話

COUNT DOWN 閉校まであと 202日



2学期始業式で放送にて生徒の皆さんにお話をした内容です。

本来であれば、皆さんの元気よく歌う校歌から始まるこの始業式ですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、1学期の始業式と同様に特別な形式を取らざるを得ません。生徒の皆さん一人一人の様子を確認しながらお話をできないのがとても残念です。

しかし、私が何よりも嬉しいのは、夏休みに大きな事故やけがなどの連絡もなく、今日、こうして皆さんが元気に登校できていることです。本当に嬉しく思います。

ところで皆さんは、今年は特別に短縮された夏休みでしたが、どのように過ごしましたか？楽しい思い出や、素敵な思い出を作ることができたでしょうか？宿題、部活動、高校体験入学と頑張ったことでしょうか。一人一人が充実した夏休みを過ごすことができたことと思います。

今日は、2学期を迎えるにあたり「思索する」をテーマにお話をします。

「人間は考える葦である」という言葉を聞いたことがありますか？これは、フランスの物理学者パスカルのパンセという書物に記された有名な言葉です。「パスカルの原理」や「ヘクトパスカル」といった気圧の単位を理科の授業で学んだことで思い出したことでしょうか。そのパスカルです。

さて、「人間は考える葦である」という名言は、「人間は水辺に生えている一本の弱い葦のようなものだが、考えるという力を持った強い存在でもある。」という意味です。確かに考える力は、人が備えている武器と言えます。人間は、考えるという行為によって、様々な新しい物を生み出したり、その時々正しい判断に結び付けたりすることができます。そうして、文明を発達させ現在に至っています。

何か大きな出来事が起こった時には、感情に流されるのではなく、まず冷静に、次のことの次第を考えてみましょう。辛い、悲しいといった気持ちが先行していても、自分自身とその後を見つめ、深く考えることで次の手立ても浮かんできます。また、自分の苦しさを緩和することにもつながります。そのためには当然のことながら、考えるもとなる言葉、語彙を増やすことが必要です。

間もなく、暑い季節も終わり、読書、スポーツそして食欲の秋と様々なことをするには適した物思う季節がやってきます。新型コロナウイルスの影響によって、学校での皆さんの生活も変わらざるを得ないことが多くなりました。3年生にとっては修学旅行が中止になったという辛い決断もありました。しかし、いつの世も学校は生徒たち皆さんの歓声にあふれ、勉強やスポーツはもちろんのことですが、仲間との集団生活の中で互いに刺激しあい、高めあい、一人一人が成長できる場です。学校の主役は皆さんです。仲間とともに今だからできること、今でしかできないこと、そして今こそしなければならぬことを思索し、活気のある学校づくりを進めていきましょう。それは学校としての存在感を強め、閉校後も永遠に後世に語り継がれていくこととなります。

今日は「思索する」ことについてお話をしました。

